

漢文 王維『送元二使安西』 定期テスト対策問題 | 形式・押韻・現代語訳の頻出設問と解答 解答・解説

問1 七言絶句（しちごんぜっく）

〈解説〉一句が七字、全体が四句なので「七言絶句」。一句五字・四句なら五言絶句、一句七字・八句なら七言律詩となる。

問2

- ・一句の字数 … 七（字）
- ・句数 … 四（句）

〈解説〉「七言」は一句が七字であること、「絶句」は四句から成ることを表す。

問3 塵・新・人

〈解説〉「ジン（塵）」「シン（新）」「ジン（人）」と、響きの似た音（-in の韻）でそろえてある。第三句末の「酒」は韻を踏んでいないので注意。

問4 （例）第一句末と偶数句末で押韻する。

〈解説〉七言詩では原則として第一句末+偶数句末（この詩では塵・新・人）で韻を踏む。五言詩の原則（偶数句末のみ）とのちがいがよく問われる。

問5

- ・元二 … イ（元家の兄弟のうち二番目の人）
- ・「使ひする」 … （例）使者として出かける。使命を帯びて出張する。

〈解説〉「元」が姓、「二」は兄弟の生まれ順で呼ぶ言い方（排行〈はいこう〉という）。「使」は「使者として行く」という動詞。

問6 イ（唐が西域を治めるために置いた安西都護府）

〈解説〉安西都護府は現在の新疆ウイグル自治区クチャ（亀茲）にあった役所。長安から数千キロも離れた西の果てで、当時としては命がけの長旅だった。

問7

- ・書き下し … 渭城の朝雨軽塵を浥し
- ・現代語訳 … （例）渭城に降る朝の雨が、軽く舞い上がる土ぼこりをしっとりとしめらせ。

〈解説〉「浥二軽塵一」と返り点が付き、「軽塵を→浥し」と下から返って読む。旅立ちの朝の、清らかに洗われた空気を描く。

問8 うるおし

〈解説〉「浥す（うるおす）」は「しめらせる・うるおす」の意。ここは下に続くので連用形「浥し（うるおし）」と読む。読みの問題として頻出。

問9 イ（長安の北西、渭水のほとりの町で、西へ旅立つ人をここまで見送る習慣があった）

〈解説〉渭城はもとの秦の都・咸陽のあたり。長安から西へ旅立つ人を、見送る人がここまで付き添い、別れの

宴を開く場所だった。

問10

・書き下し … 客舎青青柳色新たなり

・現代語訳 … (例) 旅館のあたりは雨に洗われて青々とし、柳の葉の色もあざやかに新しい。

〈解説〉 返り点はなく上から順に読む。朝雨に洗われた清新な景色で、第一句とあわせて「景」を描く前半となる。

問11 (例) 旅館。宿屋。

〈解説〉 「客」は旅人のこと。旅人が泊まる宿を「客舎」という。元二との最後の宴が開かれている場所である。

問12 イ (旅立つ人に柳の枝を折って贈る習慣があり、柳が別れの象徴だったから)

〈解説〉 中国では送別のとき柳の枝を折って贈る「折柳 (せつりゅう)」の風習があった。「柳 (リュウ)」が「留 (リュウ) = とどまる」と同じ音であることから、別れを惜しむ心を表すとされる。

問13

・書き下し … 君に勧む更に尽くせ一杯の酒

・現代語訳 … (例) さあ君、もう一杯この酒を飲みほしてくれ。

〈解説〉 「勧レ君」は「君に勧む」とレ点で返る。「尽くせ」は「飲みほせ」という命令形で、別れの間際に酒をすすめる場面。

問14

・読み … さらにつくせ

・「更」の意味 … イ (そのうえさらに、もう一杯)

〈解説〉すでに何杯も酌み交わしたうえで「そのうえもう一杯」と引きとめる言い方。別れがたい気持ちが「更」の一字ににじむ。

問15 (例) 西の陽関から先へ出てしまえば、ともに酒を酌み交わせる親しい友人はもういないのだから、せめて今ここでもう一杯飲んでほしい、と別れを惜しむ気持ちから。

〈解説〉 第四句「西出陽関無故人」が理由になっている。「これが友と飲む最後の一杯になる」という思いが、酒を勧める行為にこめられている。

問16

・書き下し … 西のかた陽関を出づれば故人無からん

・現代語訳 … (例) 西の方、陽関から外へ出てしまったら、もう昔なじみの友人はいないだろう。

〈解説〉 「西出二陽関一」「無二故人一」と二度返って読む。「西のかた」は「西の方へ」という方向を示す慣用的な読み方。文末は「～だろう」と推量で訳すとよい。

問17 イ (昔なじみの親しい友人)

〈解説〉 漢文の「故人」は「古くからの友人」の意味。現代日本語の「故人=亡くなった人」と意味がちがう、テスト頻出の語。

問18

- ・呼び名 … 返読文字（へんどくもじ）
- ・意味 … （例）「故人が（一人も）いない」という存在の打ち消しを表す。

〈解説〉「無」は「～なし」と必ず下の語（名詞）から返って読む返読文字。「無＋名詞」で「～が存在しない」となる（有・無・多・少などが代表）。

問19 三（第三句）

〈解説〉起承転結では第一句＝起句、第二句＝承句、第三句＝転句、第四句＝結句。前半の朝の風景から、第三句で酒宴の人事（別れの場面）へと内容が転じている。

問20 イ

〈解説〉雨にしめる朝の清らかな景色（前半）を背景に、西の果てへ旅立つ友への惜別の情（後半）をうたう送別詩。アのような勇壮さや、エのような陽気さの詩ではない。

問21 ア（陽関三疊〈ようかんさんじょう〉）

〈解説〉この詩は送別の歌『渭城曲（陽関曲）』として愛唱され、結句（一説には二句目以降）を三度繰り返して歌ったことから「陽関三疊」と呼ばれた。文学史の頻出事項。

問22

- ・時期 … イ（盛唐）
- ・詩人 … 孟浩然（もうこうねん）
- ・呼び名 … 仏（詩仏）

〈解説〉王維（701?～761）は盛唐の詩人。自然をうたう作風が孟浩然と近く「王孟」と並称される。仏教に傾倒したことから「詩仏」と呼ばれた（李白＝詩仙、杜甫＝詩聖とセットで覚える）。

問23 イ（自然や山水の風景を絵画のようにえがき、「詩の中に画有り」と評された）

〈解説〉王維は山水・自然をえがく詩にすぐれ、画家としても一流だった。のちに蘇軾（そしよく）が「詩中に画有り、画中に詩有り」と評した。アは杜甫、ウは李白の説明。

【補足・本文の異同について】第一句の「浥」は、本によって「潤」「裊」と書くものもあります。また詩題は『渭城曲』『陽関曲』としても伝わり、第二句を「客舎依依楊柳春」に作る古い写本もありますが、現在の教科書では本記事の形（「渭城朝雨浥輕塵 客舎青青柳色新」）が一般的です。テストでは教科書本文に従って答えましょう。